

品川区いじめ対策委員会（第2回）

議事録要旨

1 日時

平成29年10月20日（金）午前9時00分から午前11時00分まで

2 会場

品川区立大原小学校

3 審議

- (1) 学校のいじめ対策について
- (2) 学校案内
- (3) 授業参観
- (4) 協議
- (5) まとめ

4 出席者

斎藤尚也委員長、池田幹雄委員、岡本淳子委員、新藤こずえ委員

5 発言要旨

(1) 学校のいじめ対策について

<大原小学校校長により、学校の対策について説明>

- 大原小学校では、教育目標「やさしい子」を達成するため、7つの対策を行っている。
 - ①自己肯定感の育成
友達の長所をまとめ発表する活動を定期的に行っている。自己肯定感を高め、自分の考えを発表する力も身に付けさせることを目的としている。
 - ②市民科集会
異学年による悩み相談を取り入れている。
 - ③児童会活動
異学年での交流を深め、児童のあたたかさを育てる活動を行っている。
 - ④劇団「いのち」による生活指導
教員がいじめやSNS等をテーマに劇を作り生活指導を行っている。
 - ⑤組織的な指導体制
各学年団単位で児童の情報交換を定期的に行い、複数教員のチームによる指導を実施している。また、若手職員、ミドルリーダーの育成を重視し、若手教員が相

談できる窓口を設けることで早急な対応を心掛けるとともに、業務の効率化を図ることで児童と向き合う時間の確保へとつながるよう組織体制を整えている。

⑥品川コミュニティ・スクール（学校支援地域本部）

掲示物等によって児童の心があたたかくなるような環境作りを進めている。

⑦関係機関との連携

警察と合同で健全育成教室を企画する等の活動を行っている。

- いじめ根絶バッジの着用に関しても子どものアイデアを取り入れて活用している。

（２）学校案内

＜大原小学校校長の説明により、学校内の見学＞

（３）授業参観

＜大原小学校５年生の市民科の授業を見学＞

（４）協議

- 参観した授業は、子ども自身の気づきを促すような素晴らしい授業だった。子どもたちが最初いじめではないと考えていた事例も、相手の気持ちを考えるといじめだということに気づき、考えが変容していった。
- 授業内で一方的にいじめはいけないことと押し付けるのではなく、子どもたちに意見を言わせることで、いじめを受けた側の気持ちに対する気付け方が素晴らしかった。
- 授業が進む中で、いじめの基準は相手の気持ち次第だということに理解がおよぶ過程が素晴らしかった。今後は傷ついてから立ち直ることの難しさに視野を広げることも必要になってくるだろう。
- 大原小学校では「関わる」ということを教育のテーマに挙げている。一人一人の関わりが学校全体の雰囲気集約されていくので、活気や明るさにつながっていくだろう。
- ベテランの教員のみではない組織をどう強くコントロールしていくか、モデルを見ることができた。大原小学校のモデルを参考に今後、いじめの防止方法を構築していかなければならない。

（６）まとめ

今回は学校における環境の整え方や地域の力の生かし方、家庭との関わり方等の実践を見ることができた。

学校や子どもたちのためにどのような支援ができるかという原点に立ち返って、教育委員会として今後も取組を継続していきたい。